

タイトル

フアニーたい焼きトム∞ー焼きそば

シーン1: オープニングーたい焼きトム

開店前

(舞台: 東京都内の商店街。小さなたい焼き屋『たい焼きトム』の前。看板にはカラフルな文字で「FUNNYたい焼きトム」と書かれている。カラフルな旗が揺れている。)

トム (30代前半、男。陽気な声で)

「魚住！ 今日最高にフアニーなたい焼きを焼くぞ！」

魚住 (20代前半、女。心配そうに)

「今日の中身、聞くのが怖いです…。トムのさんのフアニーは予測不能ですから…。」

トム（目をキラキラさせて、派手なポーズで）

「フッフッフ：今日のたい焼きは：『焼きそば』だ！ジャジャーン！ファニーの極みだろ？」

魚住（目を丸くして、思わずツッコミ）
「ええっ！？焼きそばって：甘い生地に焼きそばっておかしくないですか？それ、斬新っていうより、ただの無謀ですよ！」

トム（腰に手を当て、胸を張る）

「違うね、魚住！これは『新たな味覚の革命』なんだ！挑戦なくして進化なし！ファニーは進化の母だ！」

魚住（ため息をつきつつ、看板を整える）

「お客さんが受け入れてくれたらいいんですけど：。もう覚悟はできてますけどね。」

（トムはたい焼きの型を抱えてダンスを始める。魚住は苦笑いしながら準備を続ける。）

トム（踊りながら歌う）

「焼きそばたい焼き！焼きそばたい焼き！
ファニーとデリシヤスのコラボレーショ
ン！」

魚住

「（小声で）うちの店、いつもギリギリで回ってる気がする…。」

シーン②：開店 | 最初のお客さん

（時計の針が午前10時を指し、店のシャッターが開く。小さなベルが鳴る音がする。）

トム（大声で、手を広げながら）

「さあ、開店しましたー！今日の新作は

焼きそばたい焼き！甘じょっぱくてスパ
イシー！お試しあれー！」

（最初のお客さんとして、中年女性が店
に入る。）

中年女性（眉をひそめて）

「焼きそばたい焼きって…それ、冗談で
言ってるんじゃないの？」

トム（自信満々で）

「ノンノン！これは新時代のたい焼きで
す！あなたの味覚をエンターテインしま
す！」

魚住（心配そうに小声で）

「あ、あの…甘いのが苦手なら、ちょっ
と…無理しない方が…」

中年女性

「まあ、一個くらいなら試してみてもい
いわ。お腹空いてるし。」

（トムがたい焼きを焼き始める。生地を流し込み、焼きそばをぎっしり詰め込む動作がカットインで描かれる。ジュウジュウと焼ける音が響き、甘じょっぱい香りが広がる。）

トム（たい焼きを差し出して）

「さあ、焼きたてホカホカの焼きそばたい焼き、いってみよう！」

（中年女性が一口食べる。目を見開き、動きが止まる。周りが静寂に包まれる演出。）

中年女性（突然感激した表情で）

「こ、これ…！このカリッとした皮の中から、ジュワッとソースが広がって…もちもちの麺と絡み合って…美味しい！」

トム（胸を叩いて）

「ほら見たことか！フアニーだけど美味しいんです！」

魚住（ほっとした顔で）

「よ、よかった…。」

シーン∞：行列の始まり

（たい焼きの評判が口コミで広まり、次第に店の前に行列ができ始める。若いカップル、サラリーマン、学生などさまざまな客が並ぶ。）

若い男性客

「SNSで話題になってたんで来ました！焼きそばたい焼き、つくってください！」

トム

「〜つなら〜つおまけで〜つにしちゃうぞ！」

魚住（あわてて）

「トムさん、勝手にサービス増やすと原価が…！」

トム（ウインクして）

「フアニー精神にはコストなんて関係ない！」

（魚住はスマホでSNSを確認する。）

魚住（読み上げながら）

「『焼きそばたい焼き、甘じょっぱさがクセになる！新しいたい焼きの扉を開けられた気分！』」

魚住

「『初めて食べたとき、思わず笑っちゃった。でも、美味しすぎてもう一個追加注文！』」

魚住

「『カリカリの皮ともちもち焼きそばの組み合わせ、これは革命だ！』」

魚住

「『お祭り気分になれるたい焼き！次はどんな中身が登場するのか楽しみ！』」

トム（笑いながら）

「見ろよ魚住！俺たちのファニー精神が世界を笑顔にしている！」

（以下、食べた客たちのリアクションや詳細な味の描写を追加。例：「口に入れた瞬間、ふわっと香る生地ของ甘さと、ソースのkokが押し寄せて…」）

シーン④：トラブルの発生と解決

（たい焼きトムは大繁盛している。店内にはお客さんの笑い声やたい焼きを焼く音が響き渡る。しかし、突然魚住が慌てた声を上げる。）

魚住（真剣な表情で）

「トムさん、大変です！焼きそばがあとわずかしが残ってません！行列もまだこんなにあるのに……！」

トム（肩をすくめて）

「大丈夫、魚住！フアニー精神には限界なんてない！」

魚住

「いやいや、精神だけじゃお腹は膨れませんから！どうしますか？お客さんに『在庫切れです』なんて言えません！」

（トムは腕を組み、一瞬考えるが、すぐに閃いた表情を浮かべる。）

トム（目を輝かせて）

「新しい具材で挑戦するんだ！冷蔵庫に何かあるか調べよう！」

（魚住とトムは店の冷蔵庫を開け、中を覗き込む。）

魚住

「えーと、冷凍コロッケ、チーズ、キムチ、そして…なぜかピーナッツバター？」

トム（ピーナッツバターを取り出しながら）

「これだ！焼きそばがないなら、『ピーナッツバター』たい焼き』で勝負だ！」

魚住（絶句して）

「ピーナッツバター！？ええっ、絶対に大丈夫じゃない気がするんですけど…。」

トム（笑顔で魚住の肩を叩きながら）

「大丈夫だ、魚住。フアニーでいることが、僕たちの使命なんだ！」

（トムは手際よくピーナッツバターたい焼きを作り始める。焼ける音と香ばしい

匂いが漂い始める。魚住は不安そうにしつつも、トムを手伝う。）

シーン4-2：お客さんの反応

（トムがピーナッツバターたい焼きを最初のお客さんに手渡す。若い男性客が恐る恐る一口かじる。）

若い男性客（驚いた表情で）

「おおっ：！これ、意外と美味しい！ピーナッツバターのクリーミーさと生地のサクサク感が絶妙に合う！」

別の女性客（たい焼きを持ちながら）

「うそ、こんな組み合わせ聞いたことないのに、なんでこんなに美味しいの！？これ、新しい革命かも！」

（次々とお客さんが試食し、笑顔でたい焼きを頬張る姿が描写される。）

中年女性

「こんな奇抜な味なのに、なんでこんなにハマっちゃうのかしら…！次は何が出るのか楽しみだわ！」

魚住（安堵しつつも呆れ顔で）

「結局なんでもアリなんです…でも、トムさんのフアニー精神、本当にすごいかも。」

トム（腕を組んで満足そうに）

「ほらね、魚住。フアニー精神は無敵だろ？」

（店内は大盛況。行列は途切れることなく続き、客たちの笑い声が商店街に響き渡る。）

エピローグ：隣町のたい焼き屋のスパイ

（店の閉店後、疲れ切ったトムと魚住が一息ついているところに、怪しい男性が入店してくる。）

怪しい男性（低い声で）

「この店の噂を聞いてきた……！」

魚住（警戒して）

「ど、どちら様ですか？」

怪しい男性（正体を明かし）

「隣のたい焼き屋の店主だ！お前たちのファニーすぎるたい焼き、味見させてもらったが……正直、真似できない！」

トム（得意気に）

「だろう？ファニー精神は誰にも真似できない！」

（男性は唸りながら店を後にし、二人は笑い合う。）

尺割り

シーン1: オープニング | たい焼きト
ム開店前

- 約 8〜10分

(トムと魚住の掛け合い、店の準備、
焼きそばたい焼きの発表。)

シーン2: 開店 | 最初のお客さん

- 約 10〜12分

(最初のお客さんが登場し、焼きそ
ばたい焼きを試食。味のリアクショ
ン描写を重点的に。)

シーン3: 行列の始まり

- 約 15〜18分

(SNS の話題で行列ができ、魚住が
ロコミを読み上げるシーン。客の多
様な反応や詳細な描写を含む。)

シーン4: トラブルの発生（未明記の部
分）

• 約 20 ～ 25 分

（焼きそばたい焼きが大成功を収める中で材料不足や予期せぬクレームが発生。トムと魚住が対策を練り、新たなアイデアを生み出す過程をじっくり描写。）

シーン5: クライマックス – 大逆転の
発表

• 約 15 ～ 20 分

（トムが機転を利かせて新商品を発表するなど、問題解決に向けたクライマックス。観客の反応をさらに大袈裟に描く。）

エピソード.. 隣町のたい焼き屋のスパイ

• 約 8 ～ 10 分

（トムと魚住が成功を喜ぶ中、隣町のたい焼き屋が現れ、ユーモラスに締める。）